Center for Development of Higher Education, Kitasato University NEWS

Vol.1

Contents

1 —— 学長挨拶

2 —— センター長挨拶

3 —— センター三部門紹介

4 —— メンバー紹介

5 —— FDへの取り組み（第１回）
FDのための必読書 －1

6 —— インフォメーション
・高等教育開発センター開設記念講演会のお知らせ
・各学部等教育研修会

学 長 挨 拶

センター開設に寄せて

北里大学長　柴　忠義

北里大学は1962（昭和37）年に開学し，５年後には半世紀の歩みを重ねます。当初は衛生学部１学部で発足した本学も，現在では７つの学部を擁する生命科学・医療科学の総合大学として確固たる地位を築きつつあります。これは偏に，先輩諸氏の多大なご努力と，現教職員の絶え間ない研鑽と向上心の賜物です。とりわけ学生教育に対して多方面から創意，工夫を行い，学生の学習力の向上に努められてきたことは，今日「教育の北里」という高い評価に繋がっているものと考えます。

かつて北里大学近未来企画委員会（平成８年）は，本学が将来，社会から選ばれる大学・病院になるために，171項目の提言を行いました。その大多数は現在，解決をみているか，実行に移されていますが，数少ない未着手となっている課題に「教育総合研究所」があります。これについての記述は次の通りです。「FD活動等を大学教育に反映させ，教員の教育モチベーションの向上を図ることを目的に，大学の附置研究機関として“教育総合研究所”を設置し，そこに複数の教育専門家を配置するなど，専門的な見地から教育機能の向上に関する具体的提言，教育訓練プログラムの研究・開発，教育評価の効果的な促進，外国の高等教育の事例研究などを積極的に推進する必要がある。」

こうした提言の背景には，本学が５つのキャンパスに分散していることや，国家試験等に強く結びついた各学部・学科・専攻における固有の取り組みが，学生教育のあり方に関する全学的な活動を消極的にしてきた面があります。そこで，各学部の取り組みを有機的に結びつけ，これらをさらに発展させるために，本年４月に大学附属施設として設置されたのが「北里大学高等教育開発センター」です。名称こそ変わっていますが，当初構想された「教育総合研究所」の趣旨が生かされるものと期待しています。本センターは，学士課程教育に対する要望を教職員，学生から幅広く吸収し，かつ，これまで各学部が独自で行ってきた教育力向上のための蓄積を結集しつつ，一層の充実を図るために研究・開発を推進し，その成果を全学的に共有化する役割を担います。

大学全入時代といわれる昨今，大学は自らの特色を発揮しつつ，教育改革に取り組み，具体的な成果を挙げていくことが急務です。本センターはその中枢機能を担うことが期待されますが，その役割が十分に果たされるかは，教職員一人ひとりの教育改善に対する努力にかかっています。教職員の皆様におかれては，本センターから発信する情報に不断の注意と関心を払い，これらを積極的に教育活動の場に生かし，センターにフィードバックする姿勢を持っていただきたいと考えます。これにより初めて全学的な教育力の向上に繋がっていくものと確信します。本センターが本学の域に止まることなく，21世紀の大学教育のあるべき姿を描き出し，教育改革の新たな道筋を示されることを願ってやみません。

センター長挨拶

広報誌の創刊にあたって

北里大学高等教育開発センター長　鈴木牧彦

本センターは，本学における教育活動の組織的改善の推進と支援を目的に，この4月に設置されました。学長のことばの中にもありますように，こうした附属施設の設置が構想されてからはや10年余の年月を経ての新しいスタートです。この間，全国各地，数々の大学でこの種の組織が続々と誕生し，それぞれの大学の教育改革に取り組んでいます。その意味では，このたびのセンター設置は他大学の後塵を拝す形になったことは否めません。しかし，教育の改善にスタンダードはありません。他大学の優れた取り組みを取り込むことはあるにせよ，自らの大学の教育改善は自らの手でカスタマイズしていかなければなりません。センターでは，当初の活動として，初年次教育プログラムの開発とe-Learningシステムの構築ならびにコンテンツ開発を取り上げることになりました。どちらも本学にとって喫緊の課題と言えるものですが，いかなる教育開発も，生命科学・医療科学の総合大学という本学の特質とそこに通う学生と教育の実状把握を離れてはありえません。それぞれの学部とそこに所属する一人ひとりの教職員・学生がどのようなニーズを抱えているかを知り，課題を発見し，さらに共有することが，本学にふさわしい教育の質的向上にとって欠かせません。4つのキャンパスに拡がる多くの教員の中から優れた教育実践を見つけ，それを広く学内に紹介していくということも，センターの使命のひとつでしょう。こうして，その事業内容には直接現れない，本センターのもっとも重要な役割のひとつは，教育改善を目指す教職員集団と，さらには学生を巻き込んだコミュニティー作りであることがわかります。さまざまな教育プログラムを開発したり教育改善の手がかりを提供するだけでなく，多くの教職員の協力を得て，センターがこのようなコミュニティーの核となるよう努めていきたいと考えています。

北里大学高等教育開発センター組織図

センター三部門紹介

高等教育開発センターでは，三部門が密接に連携し，調査・研究→開発→情報発信・フィードバックのサイクルを築きます。

教育研究部門　部門長：小島佐恵子

教育研究部門は，本学の学士課程教育における情報基盤の構築と教育改善のための支援を目的としています。具体的には，国内外の大学における教育改善に関する情報を収集したり，本学の教職員・学生にアンケート調査等を行い，現状や特色および課題，ニーズを把握し，こうした情報の共有化を推進し，課題解決やニーズの反映に向けた支援を行います。

本部門では，まず学生の大学への学問的・社会的適応を促すうえで重要である，初年次教育に焦点を当てることにしました。今後の課題としては，1）初年次教育に関する国内外の情報収集，2）学生の学習意欲・学習活動に関する学生の意識・実態調査，教員意識調査，3）1)・2)に基づいた本学独自の初年次教育プログラムの開発，2年次以降の教育とのスムーズな接続の検討が挙げられます。これらを推進するための母体として，教職員合同の初年次教育プロジェクトを立ち上げました。初年度は，学内外の情報を収集するとともに，本学学生・教職員へのアンケート調査を実施し，情報基盤の構築に努めます。

教育開発部門　部門長：藤原俊朗

この部門は，全学にかかわる教育プログラム・教材の開発を目的としています。これには，本センターが教材そのものを作ること以外に，教員の方々が教材を作成する際の支援をしたり，教育環境そのものを整えていくお手伝いをするということも含まれています。

その手始めとして，e-Learning プロジェクトを立ち上げました。設問回答，添削指導，質疑応答，意見交換を支援するシステムとして，e-Learning を導入したいと考えている方々の情報の集積地であり，発信地となるプロジェクトでありたいと考えています。

初年度は，システム構築とコンテンツ作成に向けた調査および試行を行います。具体的には，1）諸大学の e-Learning の導入状況や成果，著作権など，e-Learning に関わる者全てが知っておかなくてはならない事柄を学ぶ為に，研究会や研修講座にプロジェクトメンバーを派遣します。重要な項目については，本学に専門の先生をお招きし，講演していただく事も計画しています。2）また，学習管理システムであるムードル（Moodle）サーバの実験的運用を始めます。まずはプロジェクトメンバーに使っていただき，誰もが使いやすいシステムをめざします。

FD推進部門　部門長：岡野安洋

学内の FD 活動を活発にするためのセクションです。講演会，セミナー，シンポジウムなどを随時開催し，本学での FD 活動への基本姿勢を確立し，その推進に努めます。そして，それを広く学内，あるいは学外に発信するためにホームページを作り，年に2，3回広報誌を発行します。広報誌には，FD 関係の必読書の紹介，各学部の FD 活動への取り組みなどの連載記事を掲載し，キャンパスが分散されているために伝わりにくくなっている学部ごとの FD への具体的な取り組みや問題点を，各学部の FD 部門の責任者の方に書いていただくことになっています。そうしたことが，学内の FD 活動の情報共有を可能にし，連携を強める大きな助けとなることは間違いありません。

つまりこの部門は，FD の情報発信と情報共有を積極的に進め，学内の FD 活動を活発にするのが最大の目的であるといえます。そのためには，学内からの幅広い協力とサポートが不可欠です。FD 活動にかかわるならば，どのような些細な問題でも，是非問題提起をしていただき，問題解決や情報発信の手段として利用していただきたいと思います。

当部門ではまた，教育研究部門と連携し，学生による授業評価アンケートを授業改善に活かす方法と，そのためのアンケートの標準化，さらに，教員同士の相互研修のよりよい方法を模索し，提案していきたいと考えています。

メンバー紹介

前列左から藤原，鈴木，岡野／後列左から古矢，片山，大江，小島，荒井

センター構成員

センター長	鈴木　牧彦
センター員	藤原　俊朗
	岡野　安洋
	小島佐恵子
事務長	古矢　鉄矢
事務職員	荒井　文夫
	片山　祐司
	大江耕一郎

センター運営委員

井上　松久	（教育・研究担当副学長）
石井　邦雄	（薬学部教授）
福田　芳詔	（獣医学部教授）
高橋　正身	（医学部教授）
渡邉　　翼	（水産学部教授）
森島　直彦	（看護学部教授）
花岡　和則	（理学部教授）
北里　英郎	（医療衛生学部教授）
新村　　拓	（一般教育部長）

シリーズ

FDへの取り組み　第1回

薬学部FD委員長　本間　浩

薬学部のFD活動は，大きく分けて　1）授業評価，2）教員研修，3）講演会に分けることができると思う。そのうち1）と2）について，簡単にまとめてみたい。

授業評価は，平成14年度の前期から行っている。無記名のアンケート形式で，12の質問項目に5段階でマークしてもらっている。実習の評価のためのアンケートも別に用意し，同様の形式で評価を実施している。評価結果は，個人別の結果，全教員の結果（無記名で），結果の経年推移表，上位5名一覧などとして教員にフィードバックされる。最近，これまでの評価結果をまとめて振り返ってみた（簡単な小冊子を作ったので，ご希望の方は薬学部事務室までご連絡を）。ほとんどすべての質問項目で年とともに評価結果の平均値が上昇しており，教員の改善に向けた努力が結果となって現れたと喜んでいる。特に，「私はこの授業に熱心に取り組んだ」という質問の評価も概ね上昇しており，学生の授業への取組みにも良い影響が現れている。また，「私はこの授業の内容を十分理解できた」という質問では，新任の教員2人が初めて授業をした年には評価が大きく低下した。幸い，次の年にはお二人の評価はともに上昇してもとの評価値に戻ったが，学生による授業評価が素直で真摯なものであることを改めて感じた。一方，いくつかの問題点も明らかになった。上記のようにほとんどの質問項目で評価結果が上昇しているにもかかわらず，ある値で頭打ちになっているのである。つまり，授業改善に限界が見えてきたのではないかと考えられる。授業をもう一段「質的」に改善する必要がありそうで，大きな問題点である。また，「授業は総合的に満足できる内容であった」という質問の評価は，必ずしも上昇してはいない。各年で，学生の価値観などが異なるせいもあろうが，授業が改善され学生もより熱心に取り組んでいるにもかかわらず満足できていないという点は，より一層の授業改善を目指すうえから重大な問題と思われる。これらの問題の解決には，より広い視野を持った立場からの対応と検討が必要であり，高等教育開発センターの開設は我々にとってたいへん心強い。ご支援を衷心よりお願いする次第である。

薬学部では昨年度より6年制学科が開設された。5，6年生での5ヶ月間の実務実習が全国の薬学部で必修となり，受け入れ先の指導薬剤師のための研修会が薬剤師研修センター主催で全国規模で行われている。主にカリキュラムの3要素（目標，方略，評価）をsmall group discussionを通して学ぶプログラムである。本学薬学部では，これに先駆け平成14年度に教員を対象にして同じ内容の研修会を行った。また，助手対象のコミュニケーションスキル向上のための研修会も開催している。研修会に未参加の新任や昇任の教員については，指導薬剤師のための研修会に，大学基礎教員として順次参加してもらっている。研修会には，一部の教員がタスク（指導者）として参加し協力もしている。薬学教育にはモデルカリキュラムも設定された。このように薬学部では，6年制の開設に対応して，「外圧」によってではあったがFD活動は大きく進展した。しかし，タスクの人手不足のため研修会の開催数が限られており，未参加の教員や薬剤師への対応がなかなか進まず，懸案事項となっている。

FDのための必読書――1

池田輝政，戸田山和久他 著『成長するティップス先生』

玉川大学出版部
1,400円（税別）

本書は，名古屋大学高等教育研究センターがまとめた，大学における授業改善のための授業秘訣集である。この内容は，2000年3月からウェブページで公開され（http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/），現在でも成長し続けている。本書は2部構成になっており，第1部は若い大学教員ティップス先生が，様々な悩みや戸惑いに遭遇する「授業日誌編」で，第2部にはその悩みを解決するヒント（Tip）が丁寧に書かれている。「授業の基本編」に取り上げられた授業に対する悩みや疑問は，教員誰しもが感じるごく一般的な問題である。まずはウェッブサイトから眺めてみて，さてこれはじっくり読む必要がありそうだと感じたら，本書を手元に置いて，繰り返し読むのがよいのではないだろうか。

INFORMATION

高等教育開発センター開設記念講演会のお知らせ

演　題：大学教育の再構築に向けて
講演者：寺﨑　昌男 氏
日　時：平成19年9月10日（月）
　　17時30分～19時
場　所：相模原校舎L3号館

講演者紹介

寺﨑先生は，東京大学教育学研究科で教育学博士を取得され，大学教育・大学史をご専門とされています。現在は，立教学院本部調査役・同大学総長室調査役を務められると同時に，大学教育学会長，日本学術会議連携会員として活躍されています。東京大学と桜美林大学の名誉教授でもいらっしゃいます。

立教大学のカリキュラム改革時には文学部教授として力を注がれ，全学共通カリキュラムを立ち上げられました（寺﨑昌男／絹川正吉　監修『立教大学〈全カリ〉のすべて―リベラル・アーツの再構築―』　東信堂，2001年）。まさに理論と実戦を兼ね備えられた学士課程教育・教養教育の専門家でいらっしゃいます。著書も多数おありになり，主なものとしては，『大学教育』（東京大学出版会，1969年），『大学教育の創造』（東信堂，1999年）等，近著としては，『大学は歴史の思想で変わる―FD・評価・私学―』（東信堂，2006年），『東京大学の歴史　大学制度の先駆け』（講談社学術文庫，2007年）があります。

いわば現在の大学教育のオピニオンリーダーのお一人である寺﨑先生を，センター開設の記念講演にお迎えできたことを非常に光栄に思うと同時に，寺﨑先生から激励の言葉をいただき，センターを本学の輝ける未来のための礎石として，位置づけていきたいと考える次第です。

全学の教職員の方々には，ぜひ積極的に聴講されるようお勧め致します。聴講ご希望の方は，各学部事務室へお申し出ください。また講演後に，懇親会（会費500円）を予定しておりますので，そちらへも併せてご参加頂ければ幸いです。

各学部等教員研修会

■ **薬 学 部**　平成19年5月～平成20年1月までに3回行われる東京ブロック指導薬剤師養成ワークショップに教員が順番で参加

■ **獣医学部**　平成19年9月
テーマ：産学連携について ―産業界を視野に入れた教育―

■ **医 学 部**　平成19年8月10日（金）～11日（土）
テーマ：①守礼敬人教育とプロフェッショナリズム教育の推進
　　②教育技法のスキルアップ
場　所：オンワード総合研究所人財開発センター

■ **水産学部**　学内で3回予定

■ **看護学部**　平成19年8月～9月
後期授業開始前に集合形式，または授業参加形式での相互評価を予定

■ **理 学 部**　平成19年8月22日（水）
テーマ：授業評価と授業改善
　①理事会と教授会のあり方（小林常任理事）
　②外部から見た北里大学理学部（Benesse）
　③授業改善につなげる授業評価アンケートの分析
　（鈴木高等教育開発センター長）

■ **医療衛生学部**　平成19年12月1日（土）～2日（日）
テーマ：学生気質をふまえて教育方法を考える

■ **一般教育部**　平成20年3月上旬実施予定

編　集　後　記

4月に発足した当センターの広報誌を担当することになり，あわただしく準備をし，ようやく創刊号をお届けすることができました。

センターの重大な使命を思いますと，身の引き締まる思いですが，センター員一同意欲を持って取り組んで参ります。何卒ご支援いただきたいと思います。なお，表紙のイラストは，古矢鉄矢学長室長の筆になります。これはホームページにも使われており，今後ともこの広報誌の表紙を飾り続けることになるでしょう。

当センターへのご意見，ご要望，お問い合わせは，cdhe@kitasato-u.ac.jp までどしどしお寄せください。次号は秋に発行の予定です。（岡野）

北里大学高等教育開発センターニュース

Center for Development of Higher Education, Kitasato University NEWS

Vol.1

発行日　2007年7月22日
発　行　北里大学高等教育開発センター
　　〒228-8555 神奈川県相模原市北里1-15-1
　　FAX：042-778-9543
発行責任者　鈴木　牧彦

北里大学高等教育開発センターWebサイト
http://www.kitasato-u.ac.jp/cdhe/